第９節　笠岡市若者会議（ぼっけーまち会議）　（岡山県笠岡市）

粉川一郎（武蔵大学社会学部 教授）

調査日：2023 年 9 月 23 日（土）11 時～
調査先：笠岡市政策部定住促進センター　主査　中嶋一貴氏
　　ぼっけーまち会議　仁科恭子氏、小川歓子氏、玉置裕美氏
調査者：粉川一郎、泉澤佐江子（自治研修協会リサーチパートナー）

１．笠岡市の概要

笠岡市（かさおかし）は、岡山県の南西部、広島県福山市と岡山県倉敷市の間に位置する瀬戸内海に面した港町で、沖合には、日本遺産にも登録されている笠岡諸島があり、観光地として有名な倉敷市や、広島県尾道市にも近く、周遊しやすい立地にある。

また、カブトガニの繁殖地としても有名で、市内には世界で唯一のカブトガニ博物館が建ち、カブトガニに関する展示、研究も行われている。

市内には JR 山陽本線笠岡駅や山陽自動車道の笠岡 IC があり、新幹線のぞみも停車する JR 福山駅へも 3 駅約 15 分。

昭和 27 年 4 月に市制を施行、昭和 35 年 4 月に北川村を編入して、現在に至る。

＜笠岡市の基礎データ＞
面積　136.24 ㎢
2020（令和 2）年国勢調査人口　46,088 人
2021（令和 3）年度決算（普通会計）歳出総額　26,388 百万円
2021（令和 3）年度財政力指数　0.57

（市 HP 等による）

２．笠岡市若者会議（ぼっけーまち会議）とは

笠岡市若者会議（ぼっけーまち会議）は、笠岡に関わるおおむね 40 歳くらいまでの若者が活動する団体である。設立当初の目的は「笠岡市の将来を担う若者が住みやすいまちづくりを進めるため若者が考え、若者が企画し、若者が実行する」というもので、笠岡市の事業として平成 28 年度にスタートした。会議の設立当初は「若者会議」という名称で月に 1 回程度のワークショップを実施する形態でスタートし、その後、会議参加者自身により「ぼっけーまち会議（すごい

まち会議)」という名称が作られた。

本会議の主管課は笠岡市の定住促進センターであり、そもそも論としては笠岡市人口ビジョンにある「将来にわたって持続し、社会を維持できるような望ましい人口構成を目指すこととしています。また、笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、若者・女性の意見を大切にし、若者・女性の地元定着・移住促進に取り組むこととしていること」を具現化するための取り組みとして企画されたものである。そのため、設立当初の会議テーマは「婚姻率が上昇する方策」「希望する子どもの数を持てる方策」「転出抑制・転入促進のための方策」といった市の人口ビジョン、創生総合戦略を基にした内容であった。しかしながら、その後参加者自身の手でこうしたテーマの範囲を超える様々なテーマや取り組みが提案され、10を超えるプロジェクトが実施されるに至った。具体的には、そもそもの市の考えに近い「婚活プロジェクト」「教育応援プロジェクト」「関係人口プロジェクト」などのほかに、「自然体験プロジェクト」「六島麦畑復活プロジェクト」「妄想空き家プロジェクト」「笠岡マーケティング計画」など市民ならではの多彩なテーマでのプロジェクトが実施されたほか、フットサル、バドミントンのようなサークル活動も実施されている。

図 1　ぼっけーまち会議のコンセプト

出典：ぼっけーまち会議 web サイト

図 2　妄想空き家プロジェクトの様子

出典：ぼっけーまち会議 Web サイト

このように市民主体の多彩な取り組みが行われてきたことによって、ぼっけーまち会議のコンセプトや取り組みの位置づけも変化してきている。

現在のぼっけーまち会議のコンセプトは

『「自ら考え、企画し、実行する」まちづくりの取組みです。
笠岡をもっと良いまちにしたい。
暮らしやすく楽しいまちにしたい。

単純に仲間とわいわい活動したい。
笠岡をぼっけーまち（=すごいまち）にするため』

というような、より幅広い活動を受け入れるものに変化し、その取り組みの狙いも、若い人たちの「つながる場」「まなぶ場」「ためせる場」として、『笠岡へ愛着を持ってもらう』ことへと変化してきている。

運営形態としては、設立当初から市の事業という位置づけに変わりはないものの、現在はぼっけーまち会議そのものが主体的に事務機能を担い、市から補助金を受けるという形での運営となっている。また、活動拠点として、笠岡駅前の商店街空き店舗を利用した「ポルカドット」を設置。月１回の定例会を開催するだけではなく、ぼっけーまち会議の様々なプロジェクトの活動拠点としても利用されている。

図 3　拠点施設ポルカドット

出典：ぼっけーまち会議 Web サイト

３．ぼっけーまち会議の注目点

（１）ユニークな設立方法

ぼっけーまち会議の注目点としてまず挙げられるのは、そのユニークな設立方法であろう。設立当初の対象者の基準は笠岡に住んでいる人、働いている人、出身者や移住に興味のある人とされ、年齢は 20 歳から概ね 40 歳程度とされていたが、市は当初該当する人々に対してダイレクトメールを送付し、参加を募っていた。しかも、初期には参加者に対して報償費も支払い、（報償費の中から支払われていたが）ケーキとお茶なども用意して、参加のハードルを下げる努力を行っている。また、設立当初からこの会議の運営に外部のコンサルタントを招き、ワークショップの運営にも専門的知見を活用している。これらの取り組みからは、地域の活動に参加したことのない層をより効果的に活動に取り組んでいこうという姿勢をうかがわせる。結果として、本会議の参加者は早期に会議の名称を「自ら」ぼっけーまち会議と変更し、後述する多様なプロジェクトのアイデアをどんどんと生み出していくなど、この設立方法は奏功したといってよいだろう。

（２）地域性を活かした多様なプロジェクト

次に注目すべき点として挙げられるのは、実際にこのぼっけーまち会議が興味深い多様なプロジェクトを生み出した点である。

例えば「六島麦畑復活プロジェクト」では、笠岡市の離島である六島でかつて栽培していた麦をもう一度採れるようにと、メンバー自身が麦畑を開墾し、昔の麦畑の景観を取り戻そうとしたものである。このプロジェクトは最終的には、当地で採れた麦を使った地ビールの生産というコミュニティビジネスを生み出し、現在も当該の生産者とぼっけーまち会議は良好な関係性を保っている。また「バスに乗り隊！プロジェクト」では、笠岡市に引っ越してきた女性が、いざバスに乗ろうと思ったときにバス停には地元の人以外にはわかりにくい表示しかなかったり、時刻表の見方がわかりづらかったり、様々な困難を感じた経験をきっかけに、プロジェクトの人々が実際にバス停の表示の改善案まで作成を行った。市がかかわっているプロジェクトということもあり、このプロジェクトをきっかけとして実際にバス会社との協働でバス停の表示改善や、子ども向けバスの乗り方教室の実施するなど、地域交通の課題解決につながる大きなムーブメントも作り出した。

図 4　六島麦畑復活プロジェクト

出典：ぼっけーまち会議 Web サイト

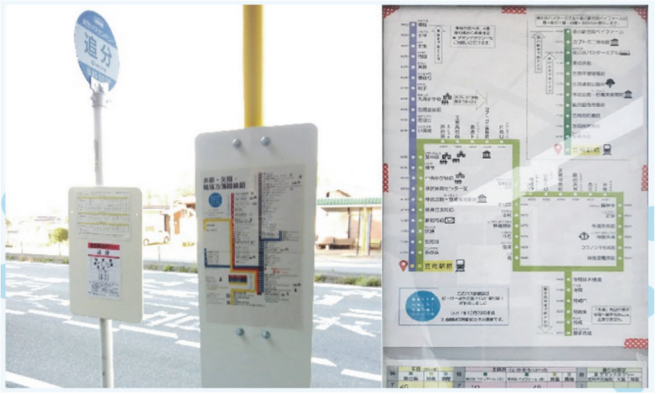

図 5　「バスに乗り隊！プロジェクト」で変更されたバス停の様子

出典：ぼっけーまち会議 Web サイト

このような地域性を活かし、地域の課題を解決するようなプロジェクトが多様に展開されたことがぼっけーまち会議の 2 つ目の注目点と言える。

（3）適度な市との距離感

3 つ目の注目点としては、市との適度な距離感である。当初はあくまでも市の事業としてスタートした若者会議であったが、自主的に参加者が名称を変更し、ぼっけーまち会議の運営そのものも一つのプロジェクトとして捉え、自立への道を進んだことは指摘しておくべきポイントである。しかしながら一方で、過度

に市がぼっけーまち会議を突き放してしまうことなく、市民活動にありがちな組織基盤の脆弱さなどを必要に応じて市がサポートしていることも注目したい。こうしたいわば「つかず離れず」の関係を維持できる背景には、市の職員が多数設立当初の若者会議に参加していたことがあるといえるかもしれない。笠岡市のことを考える若者というくくりでいえば、市役所に勤務する若者層はまさに若者会議の対象者であり、そうした職員の参加を排除することなく会議を実施していたことが、結果としてぼっけーまち会議を理解する職員層を市の中に形成し、ぼっけーまち会議と市の適度な距離感を醸成した可能性がある。こうした形態は、他地域にも応用できる取り組みの方法と言えるのではなかろうか。

４．ぼっけーまち会議にみられる課題

（１）参加者の減少と固定化

一方で現在のぼっけーまち会議には課題も見受けられる。一番大きなものは、やはり参加者の減少と固定化であろう。月一回の定例会は継続しているもののその規模は当初に比べ縮小しており、それもイベント等と組み合わせることで実施しているような状況がある。様々なプロジェクトも、プロジェクトメンバーだけでは運営が厳しくなり、ぼっけーまち会議に参加する人々が全体でプロジェクトを支えるような形態をとっている。こうした参加者縮小の要因の一つにはコロナ禍が存在したことは言うまでもないが、今後の持続発展を考えれば、参加者拡大は喫緊の課題である。若者会議の設置から 7 年が経過し、組織としてこの問題をどう捉えるかが問われている時期であるといえる。

図 6　ぼっけーまち会議パンフレット

出典：ぼっけーまち会議

（２）事務局体制

（１）で述べたような参加者層の減少に対して効果的な広報や、魅力的なプロジェクトの創出のためには、やはり事務局体制の増強が重要なポイントである。しかしながら、現状は事務局機能を担う人々がさまざまなプロジェクトでも活動しており、その負荷はかなり高いように見受けられる。事務局活動の支援は市も行っており、また現状の事務局を担う人々のセンスもあって、ぼっけーまち会議から出るアウトプットについては一定の水準を保っており、チラシや Web などの広報物を見ても大変魅力的なものとなっている。しかしながら、こうした個々のプロジェクトや広報物等のアウトプットを支える

には相当の負荷が事務局機能を担う人々にかかっているように見受けられる。事務局体制を強化していくこと、例えば有償での事務局スタッフの雇用なども検討されてよいように思われる。

５．まとめ

現状課題も見受けられるぼっけーまち会議ではあるが、これまで行ってきた活動は大変魅力的であり、笠岡市の持つポテンシャルをうまく引き出した取り組みであったといえる。人材面での課題はあるものの、これまでの実績とつながりを活かし、今後も持続可能な形で取り組みが進められていくことに期待したい。

参考資料

ぼっけーまち会議Webサイト（2023年12月20日確認 https://bokke-machi.com/）
笠岡市Webサイト（2023年12月20日確認 https://www.city.kasaoka.okayama.jp/）